

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

若手セミナーを振り返って

森内 浩幸*

鬼ならぬ病原体退治の桃太郎になるために参集!

ということで、今年の夏季セミナーは、瀬戸内海の見事な眺望を楽しめる岡山県の児島で開催されました。ここはこれまでの開催地のなかの最西の地であり、これまで参加者が少なかった中国、四国、九州からもぜひ参加してもらおうと選びました。小田慈先生をはじめとする地元岡山の先生方の温かいおもてなしのお蔭もあって、本当に充実した2日間でした。紙面をお借りして、改めてお礼申し上げます。

「自ら調べ、グループで討論し、まとめて発表する」このセミナーは開催前のメールのやりとりからスタートし、開催地に着いて（一部の人は前夜祭のときに）顔合わせした後は、一気に夜遅くまで熱心に議論を積み重ねてまとめあげていきました。セミナーの場での発表も活気に満ちたものでしたが、セミナー終了後もその頑張りを継続させ、本誌のなかで紹介する原稿にまとめあげてくれました。

今回のセミナーでは大きな改革を行いました。過去の参加者のなかからジュニアチューターを選んで、グループワークを直接指導してもらったの

です。その試みは大成功だったと思います。いつもいっていることですが、「教える」ことほど「学ぶ」ことができる機会はありません。ジュニアチューターを務めてくれた先生方にとっても、とてもよい機会になったのではないかと考えています。

セミナー会場から見下ろす瀬戸内海の眺めは雄大で美しいものでした。そして、そこに浮かぶ島々に架かる橋がはるか四国の地までつながっていることに思いを馳せ、本学会にも瀬戸大橋級の人脈のつながりができてきたことを感じました。同世代の仲間たちとの熱い議論と懇親の席での語らいのなかで生まれる「横のつながり」によって、いろんなことを相談し助け合い一緒に取り組むことができる仲間を得ることは、今後の大きな財産になります。そして、参加者～ジュニアチューター～シニアチューターとの間に築かれる「縦のつながり」によって、子どもたちを感染症や免疫疾患から守るという思いのバトンを託すことができると願っています。

来年は静岡で開催します。富士山のように高い理想を抱き、ご参集ください!

* * *

* 日本小児感染症学会研究教育委員会委員長